

第1分科会

学習指導A

高橋 史朗 先生



<略歴>

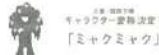
- ◎ 麗澤大学特別教授、モラロジー道德教育財団道德科学研究所教授
- ・ 早稲田大学大学院修了後、スタンフォード大学フーパー研究所客員研究員
- ・ 臨時教育審議会（政府委嘱）専門委員
- ・ 国際学校研究委員（文部省委嘱）委員
- ・ 神奈川県学校不適応（登校拒否）対策研究協議会専門部会長
- ・ 青少年健全育成調査研究委員会（自治省委嘱）座長
- ・ 仙台市男女共同参画審議会委員
- ・ 「子どもと家族を応援する日本」重点戦略検討会議「地域・家族の再生」分科会委員（政府委嘱）

玉川大学大学院講師、親学会副会長、埼玉県教育委員会委員長、埼玉県青少年健全育成審議会会長、東京都男女平等参画審議会委員、明星大学教授、麗澤大学大学院特任教授を経て、現職。他、一般財団法人親学推進協会会長、日本家庭教育学会常任理事、日本マナーマイスター学会会長、日本仏教教育学会常任理事、日本健康行動科学会理事、日本感性教育学会理事、国家基本問題研究所理事、男女共同参画審議会議員（政府委嘱）

<著書、共著・編著含む>

- 「悩める子供たちをどう救うか」（PHP研究所）
- 「教科書検定」（中央公論社）
- 「感性・心の教育（全5巻）」「癒しの教育相談（全4巻）」「平和教育のパラダイム転換」（明治図書）
- 「魂を揺り動かす教育」「教育再生の課題（上・下）」（日本教育新聞社）
- 「感性教育」「ホリスティック医学と教育」（至文堂）
- 「感性を活かすホリスティック教育」（モラロジー研究所）
- 「『学級崩壊』10の克服法。」（ぶんか社）
- 「日本文化と感性教育」（モラロジー研究所）
- 「ホリスティックな学校教育相談」（学事出版）
- 「親と教師が日本を変える」（PHP研究所）
- 「親学のすすめ」「続・親学のすすめ」（モラロジー研究所）
- 「親が育てば子供は育つ」「これで子供は本当に育つのか」「親学対談」（MOKU 出版）
- 「主体変容の教育改革」（MOKU 出版）
- 「親学Q&A」（登龍館）
- 「脳科学から見た日本の伝統的子育て」（モラロジー研究所）
- 「家庭教育の再生 今なぜ『親学』『親守詩』か。」（明成社）
- 「日本が二度と立ち上がれないようにアメリカが占領期に行ったこと」（致知出版社）
- 「『日本を解体する』戦争プロパガンダの現在 WGIPの源流を探る」（宝島社）
- 「新・東京裁判論」（産経新聞社）
- 「WGIPと『歴史戦』」（モラロジー研究所）

大阪万博のテーマ SDGsからウェルビーイングへ



いのち輝く未来社会のデザイン

Designing Future Society for Our Lives

サブテーマ

- Saving Lives
- Empowering Lives
- Connecting Lives

コンセプト - People's Living Lab -

- 1 展示をみるだけでなく、世界80個人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」(co-create)。
- 2 万博開館前から、(展示中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ、
- 3 人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の最新知恵を集め、新たなアイデアを創造・発信する場。

「いのちを救う」「いのちを力を与える」「いのちをつなぐ」

「鎮守の杜」の破壊が教育に与える影響



- 南方熊楠が神社社会に反対した理由
- ① 敬神の念を減殺する
 - ② 人民の階級を結び対立を強化させる
 - ③ 地方を濫獲させる
 - ④ 庶民の慰安を奪い、人情を薄くし、風俗を乱す
 - ⑤ 愛郷心を損ずる
 - ⑥ 土地の治安と利益に大害
 - ⑦ 勝算史蹟と古伝の遺(いん)滅

明治政府の中央集権化政策の一環
町村合併によって神社の統廃合を推進
数千年、数百年の間、地域の生態系を
守ってきた「鎮守の杜」を破壊する



南方熊楠

わが国特有の天然風景は、わが国の愛郷風土ならん。
……凡人には景色でも眺めて……人に言い得ず、
みずからも解し難いと思ふべきであらうに、
苟となく空想を振らんやりと感じ得(真知)、
しばらなりとも平日一日なりとも静念を払い得、
……学校教育などの及ぶべからざる次第ならん。
……風景ほど美に人世に有用なるものはなしと知るべし

社の4つの意味 ——「根っここと翼」を与える神話の知



明星大学の高橋史朗氏は、「神社の社は「い」や「しる」とい、癒しの原点、
神聖な場であると同時に心身ともに和と相合する場、
いのちをよみがえらせる場、健やかに元気に生きる場である」と、
「境内で耳を澄ますと、谷を走る水音が響き、木々を揺らす風の音が聞こえる。
『日本人の心の故郷』がそこにある」と語られています。
鎮守の杜の重要性を見事に言い表している文章と想いました。

高橋史朗氏

「癒し」の伝統は日本の伝統文化に深く根差しており、癒しの場である神社にみんなが集まって祭りをし、賑いや
祈りや願いなどを通して、「癒し」される場が整えられ、語りや相違や集會、祈願などによって心が癒されてきた。

- 癒しの意味を社が象徴
- ① holy(穢れを払い、本来の姿になる神聖な場)
 - ② whole(全体、単位の場)
 - ③ heal(いのちがよみがえらせる癒し、語りの場)
 - ④ health(健やかに元気に生きる賢技の場)

日本には、古来より日常生活の罪穢れを大晦日に払い、
清浄な心身で新年を迎え、一年の「しあわせ」を祈願する伝統
がある
1998年 当時美智子皇后陛下がご講読された
書に「根っここと翼」と希望へと飛翔する「翼」を添えてくれる
癒しを求めている
生きる力の「根っここと翼」へと飛翔する「翼」を添えてくれる
ものが「神話の知」であり、神道の伝統的価値観

上皇后陛下のビデオ講演 (国際児童図書評議会)



上皇后陛下が平成11年の第26回国際児童図書評議会における基調講演で紹介さ
れた。以下の愛と犠牲の物語で読者や聴者の心を打つ
その上皇后陛下も上皇后陛下を2冊を指して守らうとされた。



昭和30年 神護ひめぎりの皇
太后陛下が御覧された御講、御下下で皇
太子陛下の前で御覧された御講、御下下
で御覧された御講、御下下で御覧された御講



平成4年 第47回国民教育大会
上皇后陛下が御覧された御講、御下下で皇
太子陛下の前で御覧された御講、御下下
で御覧された御講、御下下で御覧された御講

「とこわか(常若)」の思想



Sustainability【持続可能性】
『とこわか(常若)の世』

聖武天皇 御製
橋は美たよ花さへそのまへへ
枝に霜降れどいやはや葉の本
橋に霜が降りても花までもそのまへへ
枝に霜が降りても花までもそのまへへ
枝に霜が降りても花までもそのまへへ

思想を植物に掛けて表現
するのは、日本人の知恵

「勾玉」の文化と「とこわか」思想の接点

「神話の知」とは神話の根底にある「知恵」



勾玉は日本特有の遺物であり、「出雲の玉の文化はじつに、
北九州の宗像系の人々との接点によって、そこに独自の勾玉
の文化が築かれたという考え」(宗像から出雲へ移った)

江戸以前は天災地災などの差異を理由に元号が改められる
「災異改元」
「国生み神話」に書かれているイザナギとイザナミの「失敗」も
「修理国成」(理を修めてつくり固めなせ)

- 多種多様な生命の循環、常世社会の実現
- 常若という日本の伝統的な特殊な考え方の上に立ち取り組んでいく
- 日本のものづくりの心と体は、常若から始まっている
- 『常若』とは『Sustainable』(持続可能)の言いかたではなく、
持続可能な定義に精神性、地球と人類のあるべき姿の可能性を食んでいる。

まんが日本昔ばなしはウェルビーイングの宝庫

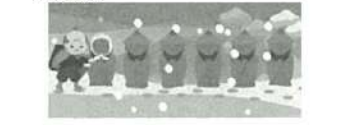
まんが日本昔ばなしエンディングテーマ「にんげんっていいな」

- 日本のウェルビーイング
- 1. 健康
 - 2. 経済
 - 3. 教育
 - 4. 文化
 - 5. 環境
 - 6. 社会
 - 7. 政治
 - 8. 国際関係
 - 9. 安全保障
 - 10. 科学技術
 - 11. 芸術文化
 - 12. 生活文化
 - 13. 観光
 - 14. 防災
 - 15. 災害復興
 - 16. 国際協力
 - 17. 平和
 - 18. 持続可能な開発目標(SDGs)



名前がないおじいさんとおばあさんが多数登場し、
主人公の弱さや嫌な部分があるが素直に肯定し、
成長しないという特徴がある。

語り継がれてきた日本の昔話には、故や空想を手放すことによっ
て福がもたらされ、ウェルビーイングが始まるという趣向の物語
が数多くある。



日本語の「幸せ」の語源と原型としての『万葉集』『古今和歌集』

謙遜 諸外国に比べて日本の若者は自己肯定感が著しく低いと指摘されているが、
自分で自分を肯定するのは「特じゃない」という文化感覚がある

「幸せ」の語源は、お互いに何かをやり合う「あ(し)あ(わ)ず」で、それが転じて「あ(し)あ(わ)せ」
日本的ウェルビーイングの原型は、人間関係の「両利」の中に見出すことができる

日本の歴史、文化の成り立ちから日本のウェルビーイングな状態、満たされた「幸せ」とは一体何か？
日本的ウェルビーイングの原型を明らかにする



やまと歌は、人の心を補として、よろづの言の葉とぞなれにける。
世の中にある人、事象、葉きものなれば、心に思ふことを、見る
もの聞くものにつけて、言ひ出せるなり。花に鳴く鶯、水にすむ
蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌を詠まざりける。
力きも入れずして天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと
思はせ、男女の絆をも和らげ、富貴武士の心をさもむるは、歌
なり

万葉集には、天皇から凡人、天人、農民など身分の貴賤
を問わず多種多様な人々の和歌が収められている

七五調のリズムと日本語の特質

西洋の美を象徴する黄金比 (5対8)

黄金比(5対8)の美の黄金比

法隆寺に現れる白銀比 (1対1.4)

法隆寺に現れる白銀比

雪月花

「着が代」も聖徳太子の17条憲法も、
童謡「はとぼっぼ」「雪やこんこん」も
七五調のリズム

角田忠信『日本人の脳』

日本人の脳

音の認知 日本人と西洋人の比較

日本人の脳: 音韻(子音、母音)、音節、ハミング、語彙、語の意

西洋人の脳: 音韻(子音)、音節、ハミング、語彙、語の意

出典: ONOSOKKI

日本文化から学ぶウェルビーイングの教訓

道元「仏道をならふといふは、自己をならふなり。自己をならふといふは、自己を忘るるなり」
何かをし何かにならなくても(doing, becoming)、自分がいる(being)だけでよい

日本文化から学ぶウェルビーイングの教訓

- ① 「上より奥」の精神
- ② ハプニングを素直に受け入れてみる心
- ③ 人間は多面的であることが当然という認識に立ち戻る
- ④ 自己肯定感の低さにとられすぎない
- ⑤ 他者の愚かさを許し、寛容に受け入れる姿勢を身につける

脳神経倫理学が解明した道徳の神経基盤

共感 = 頭で理解 + 心で納得

認知的共感: 頭で理解

情動的共感: 心で納得

出典: リカレント株式会社

中村桂子「生命誌絵巻」から見た生命の連続性

生命の尊さに関する学び
「自分」を中心にして、死と向き合う中で尊さについて考える

6600万年前に地球に隕石が衝突して恐竜が滅んだ

38億年

現存生物の共通の祖先

生命誌絵巻

生と死の関係性の理
38億年前から連続と断絶(生きもの)の壮大な進化の歴史から生命の尊さを捉え直す連続授業を実施

「幸せ4因子」と大谷翔平の「目標達成シート」を活用

「感謝融合の道徳教育」に活かす「志道和幸福」の実践
「幸せ4因子」を「感謝融合の道徳教育」に活用

自分の内なる願いである「ワクワク」を見つけて書き出す
対話する「やってみよう!」の心を育てるワーク

大谷翔平の「目標達成シート」

目標達成シートに自分の夢・目標を書き込み、交流し、「和を成す」時間として、
①聴く、②うなづく、③あいづち、④いいところ見つけ、
相手に寄り添う対話を通して相互理解を深め「アクションプラン」を決定
相互にフォローし合って、自己受容・他者信頼を育む

幸せ実感する児童は4名から28名に

安倍元首相「美しい国、日本」の姿

安倍元首相の第一次政権発足直後の平成18年9月29日の第165回国会所信表明演説

私が目指すこの国のかたちは、活力とチャンスと優しさに満ち溢れ、
自律の精神を大事にする、
世界に開かれた「美しい国、日本」であります。この「美しい国」の姿を、
私は次のように考えます。

- (1) 文化、伝統、自然、歴史を大切にす国
- (2) 自由な社会を基本とし、規律を知る、凛とした国
- (3) 未来へ向かって成長するエネルギーを持ち続ける国
- (4) 世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

美しい国へ 完全版

安倍晋三

「美しい国」を築く道

「美しい国」を築く道

「美しい国」を築く道

世界が驚く日本の「学校清掃」

学校清掃
米大津大学の授業で日本の「学校清掃」のビデオを見せた。
「学校清掃」は業者の仕事という「世界の常識」であり、
「外なる自然」を掃除することによって、「内なる自然」である
自分の心が磨かれるという発想がないことに気づかされた。

日本の学校教育では、スキルや知識だけでなく、「徳」の3原則
など、礼儀や心構え、態度といった「道」に通じる精神が
重視される。「道」の思想は日本人の教育観に通じ、家庭で
のしつけ教育や学校教育、社員教育などによって「道」は日本
社会の隅々まで浸透してきた。

「道」には、基本の「型」を自分のものとし、駆使することで
独自の手法へと磨き上げる「技」(型を守り、型を破り、型から
離れる「守破離」)の過程があり、この過程そのものが
「道」にはかならない。「技」を体系立てたものが「道」であり、
日本人の「道」には終わりが無い。それ故にこそ、いつまでも
謙虚に自らを磨き、世代を超えて伝承され、進化し続けて
いく

「しつけの三大原則」
一、朝のあいさつ
をする子に
二、ハイハイはつらがり
返事のできる子に
三、席を立つたら
必ずイスを入れ
ハキモノを脱いだら
必ずそろそろと片づける

森信三

全国神社和太鼓・津軽三味線演奏と
「常若・志道和幸」教育トークショー企画



石清水八幡宮権宮司
田中朋清氏

唯一無二の和太鼓・津軽三味線
二刀流演奏家 木村善幸氏

麗澤大学特別教授
高橋史朗先生

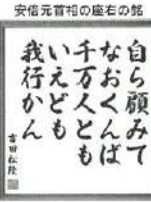
「道徳的実践意欲と態度」につなぐキーワードは「願力」

感性とは
創造性の原動力
真善美の創造の源泉エネルギー＝「願力」
道徳的心情と道徳的判断力がこの「内なるくいのち」の叫び

➡ 自己の願いと重なったときに
「道徳的実践意欲と態度」へ

感知を意義一休のものとして捉える「情動学」
情動的共感(道徳的心情)と認知的共感(道徳的判断力)を
道徳的実践意欲と態度につなぐ鍵となる「願力」。
一人ひとりの「内なるくいのち」の叫びを
“感じ、見つけ、深める”ことが
「行動への動機付けや方向付け」
「道徳的実践意欲と態度」に直結する。

内なる理想に基づく屋上命令として
「志を立て」
「道を求め」
「和を成して」
「幸せを実感する」



「常若・志道和幸」教育

SDGs

常若

和して同ぜず

和の精神の「発展」
(共生、共活、共創)

Well-being
和を成して幸福を感じる

共生: 多様性の尊重
共活: 多様性を活かす
共創: 異なるゆえに事成る

志を立て
道を継承

和をもって尊しとなす

- 1 SDGsが抱える根本問題とSDGsを補完する日本の哲学・思想
- 2 SDGsからウェルビーイングへ
- 3 日本社会に根差すウェルビーイング
- 4 感謝が幸福に及ぼす影響
- 5 ポジティブ心理学・アドラー心理学・幸福学の共通点
- 6 日本人の「文化的幸福」「集団的幸福」観
- 7 感知融合のウェルビーイング教育
- 8 日本モデルのウェルビーイング教育
- 9 「常若産業甲子園」の先駆的取り組み
- 10 「祈りプロジェクト」を国連と全国の神社で展開

